



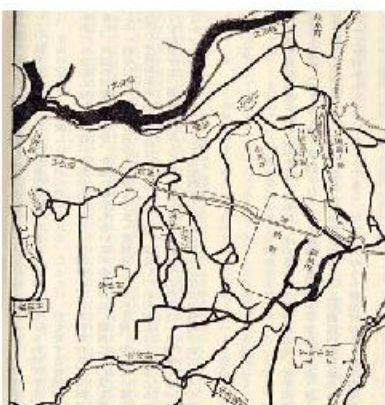
忠節用水の今昔

岐阜市街を網の目のように
走っていた農業用水

大正の頃までは、柳ヶ瀬及びその周辺にも水田や桑畑が広がり、水を引き入れるための農業用水が網の目のように繋がっていました。それが「忠節用水」です。市中を注意深く歩いてみると、随所にその痕跡を見つけることができます。それはいつ頃どのように造られ、どこを流れ、今はどうなっているのでしょうか？

1. 江戸時代の忠節用水

忠節用水がいつできたのかは明確には分かりませんが、江戸時代の初めにはあったようです。忠節村（現四ツ屋公園付近）に井堰を設け、長良川から取水していました。



承応2年(1653)の忠節用水

用水を利用していた村々は、上加納・御園・上川手・下加納・六条・清・宇佐・

2. 明治・大正期の忠節用水

岐阜市が誕生して間もない明治24年(1891)頃は、市内や周辺の上加納村、西南部の村々には水田と桑畑が広がり、その水田に忠節用水が利用されていました。大正初期の忠節用水は、750ヘクタール程の耕地を潤していました。大正6年(1917)に樋門の改築が行われ、用水の一部もコンクリートで造り替えられました。大正10年(1921)の「木曾川上流改修工事10カ年事業」の計画に



明治24年・忠節用水のようす

は「長良川古川・古々川の締め切り工事」や「左岸の岐阜特殊堤工事」と共に「忠節用水路付け替え工事」も含まれていました。

それが行われると、河床も水位も下がり、水が必要な時期には仮堰を設けて取水しなければならなくなります。また土砂が溜まって水を取り入れることもできなくなります。

一方、この頃になると、市内や周辺の町や村にも工場がいくつも建てられるようになり、また市街化も進みました。そして生活排水・工場排水のため用水が汚染されるという問題も起こってきました。このような事態の中で、忠節用水の取水口は上流に移されることになり、安定的に用水の水を確保しようとなりました。

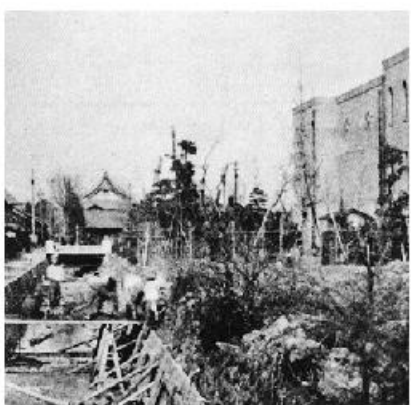


鏡岩の導水路造成工事

3. 昭和初期・忠節用水付け替え

昭和6年(1931)9月、取水口を2.5km上流の金華山の麓・鏡岩に移す工事が始まりました。

導水路を設け、柳生町地内の従来の用水路に至るまでの区間を改良して接続しました。また、より多くの水が流れるよう用水の幅を広げたりしました。更に「論田川ニ至ル新水路」と「本



用水工事と市公会堂 北に美江寺観音

庄沖ノ橋ヨリ西ニ新水路を新設し、鏡島村や市橋村へも水が送られ、米の収穫量を増やしていきました。昭和11年(1936)7月に用水の付け替え工事は全て完成しましたが、並行して昭和9年(1934)から「家庭から出る汚水や便など雨水とを別に流す」という岐阜市下水道工事も行われました。その結果、次第に忠節用水の水はきれいになり、水量も多くなりました。魚とりや水遊びをしたりして遊ぶ子供たちの姿があちこちで見られるようになりました。



御手洗池付近の用水



大宮開門第二樋門



泉町から西を望む



明徳町の橋桁

4. そして今は？

戦後になると、岐阜市街地はもろろん周辺でも市街化が進み、水田がほとんど見られなくなりました。

昭和30年(1955)頃、忠節用水にはコンクリートの蓋がされ、暗渠の道路になってしまいました。

鏡岩から護国神社前・御手洗池の辺りは用水が確認でき、周りの景色に映えています。金華山トンネル北に大宮開門第二樋門があり、壁には「忠節用水」と書かれています。岐阜公園では万松館の裏で用水が見られますが、歴史博物館の南から大仏殿の方へ暗渠が曲がっています。

その後の水路を確認するのは困難ですが、「水路だ」と分かるのは、泉町・堀江町の東西の通りです。道の半分はコンクリートで、所々に鉄板の蓋があります。西に向かい柳生町まで来ると、道が二つに分かれています。右の道は西別院から西野町・本郷方面へ続いているようです。左の道は金華橋通りを越え、美江寺観音・市民会館・

消防本部の裏を通る斜めの道は、やはり暗渠となっています。

中警察署から東に曲がり、再び金華橋通りを越した所(明徳町)に橋桁が残っています。当時の用水の橋だと分かります。

この橋桁から市役所本庁舎の南に向かつて斜めの道が通じています。そして、金屋町・粕森公園から梅林方面に暗渠が繋がっているようです。

橋桁の少し東で分かれた水路は、ドリムシアターの前から金華橋通りを越えて斜めに西南に向かい、若宮通りを越え、西柳ヶ瀬からグランヴェール岐山の西に至ります。そして忠節橋通りを斜めに越して西南に向かっています。これは本庄・三里方面に続いているようです。

今では水田が殆ど見られなくなり、下流部の一部のみ用水が利用されていますが、用水としての役割は小さくなりました。

そんな中、岐阜市は、用水の流れを生かして「憩いの場」を造ろうと、



橋桁から東を望む

「淡コミュニティ水路」「清水川コミュニティ水路」「アクアージュ柳ヶ瀬」などを整備しました。

現在、この用水路は「今泉排水路」「清水川排水路」として管理され、各地の樋門ごとに「用水時」「出水時」の「全開」「半開」「全開」等の約束が細かく決められています。

つまり農業用水というだけでなく、出水時に町を守る治水施設としての役割を果たしているのです。

○この文章は、「岐阜市史・通史編・近世・近代」「厚見郡史」「岐阜県岐阜市稲葉郡忠節用水改良事業概要」などをもとに、橋村健と後藤征夫がまとめました。

岐阜市歴史博物館ボランティア

「お話し・岐阜の歴史サークル」

代表 後藤 征夫

http://book.geocities.jp/gifu-rekishi/

http://gifu-rekishi/

TEL 058-231-6726